

IV. 本教材の使い方

1. 対象レベル

本教材の目標は、常用漢字すべてのマスターにありますので、常用漢字未習得の学習者であれば誰でも、本教材を使って学習を進めることができます。

しかし、基本的な漢字さえも知らなければ、漢字の字形一つを覚えるのにも大変な労力がかかります。短期間で2,000を超える漢字を習得するには、すでに持っている漢字知識を有効に活用していくことが必要不可欠です。基本的漢字を身につけていれば、新しい漢字を基本漢字の組み合わせとして、あるいは類似した字形の漢字として、そして同一の音や類似した意味の漢字として、効率的に学ぶことができます。

この意味で、本教材を使って効果的に学習するためには、最低限、通常の初級コースで学ぶ漢字約300～500字程度を習得していることが必要です。具体的に言えば、本教材の学習漢字のうち、第1・第2水準(1-350)の学習漢字の大部分が理解できる程度の漢字力は必要となります。このレベル以上の学習者であれば、本教材の本冊とワークブックを並行して使用して、効率よく体系的に漢字と語彙を学べるでしょう。

現在まだ初級段階で勉強している人は、本教材の本冊を使って、教科書で勉強した漢字の知識を整理し、熟語等の語彙を増やすことができます。その場合、ワークブックはある程度漢字と語彙の知識が増えた段階で使い始めればいいでしょう。

2. どこから学習を始めるか

大まかに言うと、本教材の第1水準と第2水準は初級段階、第3水準は中級段階、第4・第5水準は上級段階、第6・第7水準は超上級段階となります。学習者は自分の知識・能力や勉強のしかたの好みによってどこから勉強を始めてもかまいませんが、本教材は、常用漢字すべてをマスターするための教材として構成されていますので、第1水準の初めから順に最後まで勉強することを薦めます。第1・第2水準では、学習漢字の大部分はすでに知っていることと思いますが、そこでも初級の語彙にとどまらず、中・上級学習者に必要な語彙を積極的に提示してあります。そのため、第1水準から学習することは、中・上級学習者にとっても、語彙の拡充に十分、役立つでしょう。

3. 本教材を使った漢字と漢字語彙の学習

本教材を十分に活用していただくために、ここでは本教材の特長を生かした基本的な学習方法について解説します。

本教材は、これまで漢字学習をしてきて、すでにある程度の漢字を習得している学習者を対象とし、このような学習者が常用漢字すべてを理解できるようになるための教材として作成されています。この目的のため、以下の三つの段階に分け、それぞれ4つのステップを踏んで学習を続けるようになっています。

〈学習者はワークブックを使って、以下のような要領で勉強を進めてください。〉

第一段階：基本語の学習（常用漢字の読みの習得）

ステップ1 学習漢字の基本的知識の形成

本冊で学習漢字の字形、基本語（赤字）の意味と読み、及びそれを構成している漢字を確実に覚えてください。この知識が各学習漢字の知識の基本になります。

ステップ2 学習漢字の意味と用法の理解

本冊で基本語以外の語例を勉強し、学習漢字の意味と用法を確認してください。なお、まず基本語（赤字）だけに絞って学習を進める場合は、覚える必要はありません。

ステップ3 語例の使い方と関連語の学習

学習した漢字の語例の使い方や関連語をワークブックで勉強してください。基本語（赤字）だけに絞って学習をする場合は、ワークブックの項目番号が黒丸で表示されているものだけをしてください。太字で示されている語が基本語ですので、その意味と読みと使い方を確実に覚えてください。万が一分からない場合は、もう一度本冊に戻って勉強してください。

ステップ4 習得の確認

基本語について、確実に習得しているかを確認してください。日本語の先生や友達に簡単なクイズを作ってもらい、フラッシュカードを作る等もいい練習になります。また、ワークブックに出ている文を自分で作れるかを試してみるのも役立ちます。

以上、ステップ1～4の仕方で学習を続け、基本の学習を第156回まで修了します。基本語はおよそ3,700語あります。これらすべてをマスターすることで、新聞や雑誌など、日常目にする日本語の読み物に現れる漢字のほとんどについて、その意味や読みが推測できるようになるでしょう。

第二段階：無印語の学習（常用漢字の読みの復習と語彙の拡充）

第二段階では、習得した常用漢字すべてについて、語彙を増強していきます。第1回に戻り、基本語の復習と共に、◇や歴特以外の語（無印の語）について、基本語についてと同様の仕方で学習をしていきます。基本語学習ですでにすべての常用漢字は既習になっていますので、未習漢字を含む語例（*を含むもの）についても学習をしてください。なお、無印の語については、そのすべてがワークブックで扱われているわけではなく、重要な語、使い方が難しい語に絞っていますので注意してください。基本語の学習時よりも覚えるべき語数は多くなりますが、基本語の学習で常用漢字の字形や読みをすでに習得しているので、基本語の学習時よりも学習は速く進むでしょう。この方法で第156回まで修了します。

第三段階：◇や歴特の語の学習（常用漢字の読みすべての習得と語彙の拡充）

最後に、残った◇や歴特の語について、また第1回に戻って学習していきます。これらの語は、一般的には重要性が低い語と考えられる語で、ワークブックでも扱われていません（◇の語については、一部ワークブックでも扱っています）。本冊で確認をし、必要に応じて学習を進めればいいでしょう。ただし、常用漢字の読みを100%すべて完璧にできるようにしたい場合は、これらの語も含め、すべて読めるようにすることが必要となります。

Ⅲ. ワークブックの概要

1. ワークブックの主な内容

ワークブックでは、毎回、本冊に示された学習漢字を順番に10～15字ずつ（第1・第2水準では約10～30字ずつ）取り上げ、語例の使い方に習熟し、漢字語彙を拡充するために役に立つと思われる学習材料を様々な形で提示しています。各回は大きく3つのセクションから成り立っています。各セクションの内容は以下の通りです。

- I. 学習漢字の語例を含む複合熟語、慣用的な表現、文の構成など
- II. 学習漢字の語例の関連及び関連語、表現の対比など
- III. 学習漢字の語例を使った実際的な例文

では、それぞれについて例をあげながら説明します。例の中の下線は本冊で提示された語例であることを示しています。

I. 学習漢字の語例を含む複合熟語、慣用的な表現、文の構成など

このセクションでは、提示されている表現を勉強し、語の基本的な使い方を学習します。

1) 学習漢字の語例を含む複合熟語

例) 和平交渉 団体旅行 支持率 技術移転

2) 漢字の語例を含む広い意味での慣用的な表現

例) 平和を守る 公平な態度 家具付きの家 質問に対する答え

3) 学習漢字の語例を使った文の構成

例) 男も女も同等の扱いをする 議論が平行線をたどる
上体を大きく後ろに反らす 手紙を封筒に入れて送る

II. 学習漢字の語例の関連及び関連語、表現の対比など

このセクションでは、提示されている表現を勉強し、他の語彙との意味の関連を学習します。

1) 学習漢字の語例の関連及び関連語

例) 戦争 平和
管理職 平社員
足し算 引き算 掛け算 割り算
電車 / バス の切符 映画 / コンサート のチケット

2) 表現の対比

例) 収入 ↔ 支出 (↔は、反意語であることを示す)
意見 / 提案 に反対する ↔ 意見 / 提案 に賛成する
ビールを冷やす — ビールが冷える (—は、自動詞 / 他動詞関係であることを示す)

Ⅲ. 学習漢字の語例を使った実際的な例文

このセクションでは、例文をよく読んで、下線で示した語の文中での使い方を学習します。

例文は、成人学習者が興味を持って学習を進めることができ、かつ、学習漢字の語例の用法を学習するのに最も適当と思われるものを提示しました。下線の語の読み方は別冊にまとめて示してあります。

2. ワークブックで扱う語例

ワークブックでは、本冊で提示された語彙のうち、すべての赤字の語（基本語）と、無印の語、および◇の語を扱っています（→「II-6. 凡例」を参照）。また、基本語は太字で示し、基本語を含む文は、その項目番号を黒丸としています。基本語だけを先に学習する時は、ワークブックの黒丸の項目を選んで行ってください。

なお、未習漢字を含む語（*印のついている語）については、原則としてワークブックの下線語としては取り上げていません。ただし、わずかですが、基本的な読みを含むという理由で、未習漢字を含むにもかかわらず基本語となっている語があります。これらについては、基本語としてワークブックで学習します。

〔歴〕〔特〕の語については、特殊で使用頻度が低いと思われるため、読みが重要だとして基本語になっているごく一部の例外を除き、ワークブックでは扱っていません。

3. ワークブックと学習水準

ワークブックの Vol. 1 では、本冊の第1水準から第3水準まで（1-1200）の漢字の語彙が、また Vol. 2 には第4水準から第7水準まで（1201-2136）の語彙が、それぞれ提示されています。

第 145 回

柿	梨	蜜	麵	餅	餌	酎	串	箸	井	釜	鍋	煎	膳
1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968

I. 次の表現を勉強し、_____の言葉の意味と読み方を覚えなさい。

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① 柿の木に実がなる | ② 梨の皮をむく |
| ③ 黒蜜の入ったカステラ | ④ 正月に餅をつく |
| ⑤ 金魚に餌をやる / 与える | ⑥ 野生動物を餌付けする |
| ⑦ 箸で食べる | ⑧ 豆 / ごまを煎る |

II. 次の表現を比較し、_____の言葉の意味と読み方を覚えなさい。

- | | |
|--|---|
| ① 渋柿 <small>しぶ</small> 干し柿 <small>ほ</small> | ② 梨 (西)洋梨 |
| ③ 蜜 <small>はち</small> 蜂蜜 <small>はち</small> 蜜蜂 <small>はち</small> | ④ 焼酎 <small>しょう</small> 酎ハイ |
| ⑤ 串カツ <small>くわ</small> 串団子 <small>くわだんご</small> | ⑥ 割り箸 <small>わり</small> 菜箸 <small>さい</small> 箸置き |
| ⑦ 天井 <small>てん</small> 牛井 <small>ぎゅう</small> 親子井 <small>おん</small> 海鮮井 <small>かいせん</small> | ⑧ 釜飯 <small>かまめし</small> 鉄釜 |
| ⑨ 鍋物 <small>なべ</small> 土鍋 <small>ど</small> 圧力鍋 <small>あつりょく</small> 鍋料理 | ⑩ 緑茶 <small>りょく</small> 煎茶 <small>せん</small> 番茶 <small>ばん</small> |
| ⑪ 煎る <small>せん</small> 焼く <small>やく</small> 煮る <small>に</small> 揚げる <small>あがる</small> | |

III. _____の言葉の読み方を書きなさい。

- ① 政治家と建設会社の蜜月関係が報道され、問題になっている。
- ② 暑い夏には冷たい麵類が食べたくなる。
- ③ 私は犬を二匹飼っているが、一匹ばかりをかわいがるともう一匹が焼き餅を焼く。
- ④ 日本庭園にあった休憩所で、お煎餅を食べて煎茶を飲んだ。
- ⑤ 「はとに餌を与えないでください」と公園の入り口に書いてあった。

- ⑥ 足を怪我した鹿はライオンの餌食になってしまうことがある。
- ⑦ 彼の作品は批評家の餌食となり、多くの雑誌で批判された。
- ⑧ 私の父は、毎晩焼酎を炭酸水で割って飲む習慣がある。
- ⑨ バーベキューは普通に焼くより、串刺しにして焼いた方が雰囲気が出る。
- ⑩ 漆塗りの箸を二膳買って、新婚の友人夫婦にプレゼントした。
- ⑪ 部下：あの工場を解体するのにおそらく1千万円ぐらいかかります。
上司：そんな井勘定じゃだめだ。きちんと見積もりを立てなさい。
- ⑫ 彼とは同じ釜の飯を食った仲なので家族同然だ。
- ⑬ 創業社長の後釜に座ったA氏の評価は最悪であった。
- ⑭ 鍋物を食べると体が温まるので健康にいいらしい。
- ⑮ この漢方薬は数種類の薬草を煎じて作られたものだ。
- ⑯ 今度の新しい部長は、社長の肝煎りでライバル会社から引き抜かれたといううわさがある。
- ⑰ お寺で精進料理を食べた時、お膳で食事が運ばれてきた。
- ⑱ アルバイトで配膳の仕事をしていたことがある。
- ⑲ 友人にお膳立てをしてもらい、大会社の社長に会うことができた。